

## 100 年経営「老舗企業」の倒産動向調査（2024 年）

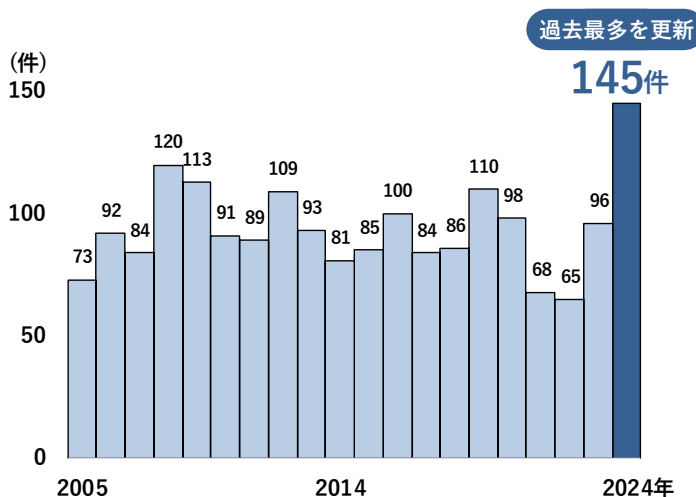
# 老舗倒産、過去最多を大幅更新 「リーマン超え」の 145 件

～ 小売・製造業で約 6 割、物価高や後継者難などを克服できず ～

長い歴史を刻んできた「ニッポンの老舗」が、苦境に立たされている。創業・設立から 100 年以上の業歴を有する老舗企業の倒産は、2024 年に 145 件発生した。前年の 96 件から約 1.5 倍に急増し、リーマン・ショックが起きた 2008 年を大幅に上回る高水準に達した。

日本の老舗企業は世界の約半数、業歴 200 年以上では 3 分の 2 を占めるとの調査もあり、世界に誇る日本の魅力の一つである。老舗が数々の災禍や市況の変動をくぐり抜けた姿や経験から、国内外問わず事業継続の成功に向けたケーススタディとして取り上げられることも少なくない。一方で小規模事業者も多いなか昨今の環境変化は目まぐるしく、今後も老舗倒産は相次ぎそうだ。

老舗企業倒産 年間推移



老舗企業 社数推移 (2024 年時点)



老舗企業倒産:法的整理(負債 1000 万円以上)となった企業のうち、倒産時点で創業・設立から 100 年以上の企業を指す

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 藤井 俊

【問い合わせ先】 旭 海太郎 03-5919-9343 (直通) kaitarou.asahi@mail.tdb.co.jp

情報統括部: tdb\_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

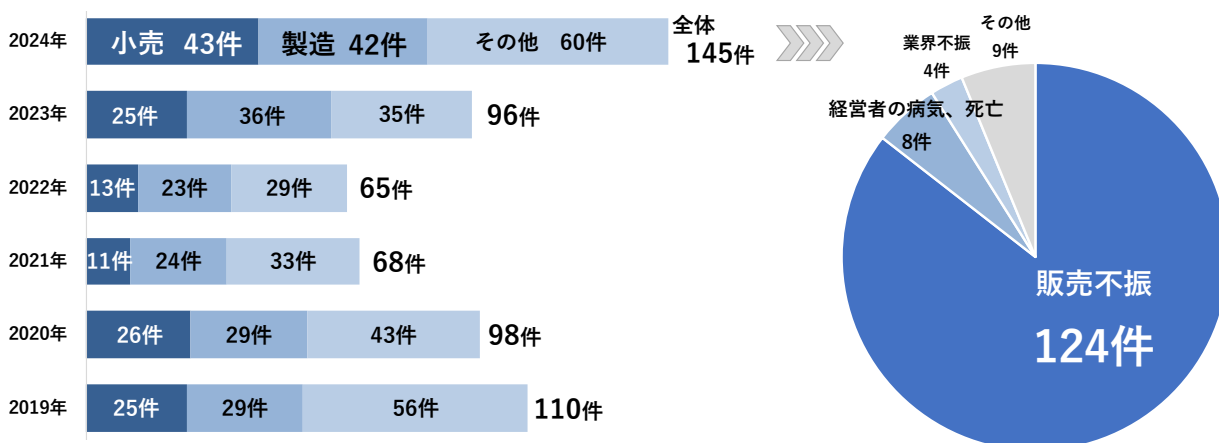
## 地域から愛された名店が相次いで終幕 小売・製造業を中心に老舗倒産が急増

2024 年に倒産した老舗企業は、145 件に達した。5 年ぶりの 100 件超で、これまで最も多かったリーマン・ショック時の 2008 年 (120 件) を上回り、過去最多を大幅に更新した。

業種別にみると、小売業が 43 件で最も多かった。スーパーマーケット (5 件) を筆頭に、百貨店 (2 件) も含めた大型商業施設が相次いで姿を消した。さらに呉服小売 (4 件)、料亭 (3 件) など昔ながらの業種も目立った。また、製造業も 42 件と高水準だ。郷土料理や加工品などを手がける水産食料品製造 (4 件) のほか、2024 年 12 月にユネスコ無形文化遺産として日本酒の「伝統的酒造り」が登録された清酒製造 (4 件)、地元の銘菓を扱う生菓子製造 (3 件) や米菓製造 (3 件) などがあつた。小売業と製造業の 2 業種で、全体の約 6 割を占めた。

また、倒産要因ではほとんどが「販売不振」(124 件) だった。加えて、物価高や後継者難など、昨今鮮明になりつつある経営リスクが直撃したケースも数多く確認された。

### 老舗企業倒産 業種別年間推移・2024 年件数の倒産要因別



## 揺らぐ老舗のブランド 長年の伝統と苦難を超えてきた強みを武器に再起を果たせるか

長い業歴は、その企業が市場のなかで生き残り続けた証明であり、業歴 100 年を上回る「老舗」というブランド力は大きな強みを持つ。企業間取引においては、長年の信用を裏付けに関係が構築・継続されていくことも多い。また、財務面では長年にわたって蓄積された資産を生かした収益性・安定性が老舗企業の強みでもあり、ブランド力だけではない確かな魅力も存在する。

一方で、老舗企業は小規模事業者が多くを占めている。そうしたなか、近年深刻化している物価高や後継者難に対応できなくなるケースが増えており、日本の伝統産業や地域に愛された企業もその例外ではない。また、2023 年には上場老舗企業ながらコンプライアンス違反によって倒産したケースも複数生じ、「老舗＝安泰」というイメージに変調が表れている。

老舗企業は代々続く伝統の家訓・経営理念に代表される豊かな精神性や公益を重んじる事業展開を武器として、長く事業を続けられたはずだ。一層激しく経営環境が変化するなか、あらゆる荒波を乗り越えてきた「進取の気性」が今一度求められているといえよう。

## 2024 年 主な老舗倒産事例

### 寛永元年創業、「超」老舗のそば屋が 400 年の歴史に幕 — 株式会社大久保西の茶屋（長野県）

長野市戸隠地域に本店を構え、1624 年創業の茶屋が起源である老舗そば店。長野駅近くにも出店し、郷土食である「そばおやき」や生そば、そば茶の物販などを展開していた。とんかつ店も 2 店舗を設け、広く地元客から愛されていた。

しかし、小規模な業容のなか新型コロナウイルスの影響が直撃した。不採算店の閉鎖などで収益が悪化したことから資金繰りはひっ迫。2023 年 3 月には本店のみの営業に事業を縮小し、立て直しに努めていたが赤字体質から脱却できなかった。9 月 2 日に事業停止となり、業歴 400 年の歴史に終わりを告げた。



大久保西の茶屋 本店

### 親しまれた「松河屋老舗」のブランド、洋菓子ブームに勝てず — 株式会社松河屋（愛知県）

文久 2 年、1862 年の創業。業歴は 160 年を超え「松河屋老舗」のブランドとして、「栗道楽」「芸どころ」「大納言」「百人一首」などのオリジナル商品を展開。地元愛知県を中心に、東海・北陸地方のスーパーや百貨店でも人気を博していた。

しかし、消費者の嗜好の多様化で洋菓子を取り扱う事業者などとの競争が激しく、近年売り上げは漸減傾向をたどった。そのため収益面も悪化し運転資金の確保も困難となり、8 月 23 日までに事業を停止。11 月 7 日に破産手続開始が決定した。



松河屋 春日店の看板

### 押し寄せる大型店の台頭、主要顧客の撤退が追い打ち — 株式会社中三（青森県）

青森県五所川原市で呉服店として、1896 年に創業。1954 年に法人化し、岩手県や秋田県にも進出、ピークとなる 98 年 8 月期には年売上高約 415 億円を計上していた。

2000 年以降は大型ショッピングセンターの出店が相次ぎ、徐々に客足は遠のいた。2011 年 3 月には盛岡店でガス爆発事故に見舞われたことも重なり、民事再生法の適用を申請。投資ファンドの下で復活を期したが、地元の人口減に歯止めがかからなかった。2024 年 4 月には中核テナントだった大型書店の閉店が追い打ちとなり、8 月 28 日をもって最後の弘前店が閉店した。



中三 弘前店